

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援事業所 エールマリヤ		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 16件
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5件
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの安心感と高い満足度	子どもが「楽しみ！」と通所できるよう、信頼関係を土台に遊びを通じた発達支援を行っている。保護者からも「通所を楽しみにしている」との声が多く寄せられている。	療育活動の土台である安心できる場所づくりを継続し、楽しみながら発達を促すプログラムをさらに追求していく。
2	丁寧な保護者支援と情報共有	連絡帳や「えーるだより」を通じた日々の状況報告、定期的な面談により共通理解を図っている。保護者からは相談のしやすさや共感的な姿勢が高く評価されている。	次年度はペアレント・プログラムの実践を予定しており、保護者の悩みにより深く寄り添える体制を整えていく。
3	環境の構造化と専門的なアセスメント	視覚的な刺激を抑えた部屋づくりや、マットを用いた着替えスペースの区切りなど、特性に応じた構造化を徹底している。またフォーマル・インフォーマル両面でのアセスメントを実施している。	成長による変化を敏感に捉え、アセスメントの結果をより迅速に個別支援計画へ反映させていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	第三者による外部評価の未実施	これまで自己評価と保護者評価に注力しており、外部視点による客観的な評価を受ける機会が不足していた。	今後、第三者評価の受審を計画し、その結果を業務改善に繋げる体制を構築していく。
2	マニュアルの周知と専門研修の体系化	各種マニュアル(事故防止・緊急時等)の策定はされているが、職員や家族への周知徹底にまだ改善の余地がある。	次年度は療育現場と保護者支援に関する年間研修計画を策定し、動画研修なども活用して職員の資質向上を図っていく。
3	地域交流・地域開放の機会不足	併設のこども園との連携は月1回行っていますが、地域住民を招待する等の地域に開かれた運営が十分ではなかった。	今後、地域とつながる活動や行事を計画し、地域社会との連携を強化していく。